令和６年度　第３回　学校評議員会

日　時：令和７年３月６日（木）　9 時 50 分～11 時 00 分
場　所：本校多目的教室
出席者：学校評議員７名　学校職員 10 名

１．開会

２．学校長挨拶
・一年間、各種行事が順調に実施できた。生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができた。
・３月１日（土）に高校卒業式が行われた。卒業式後も３年生は国公立大学前期入試の結果を待ちながら中期・後期入試に備えて学習を頑張る様子が見られる。
・大学入学共通テストを３年生のほとんどが受験した。また、12 月までに総合型選抜、学校推薦型選抜で合格内定をもらう生徒も多くなってきている。
・１年間の学習成果の発表の場として、附属中学校では２月 21 日（金）に総合文化発表会が行われた。高校１年生、２年生もそれぞれ学習成果のまとめを進め、探究活動の発表会を行っていく。
・附属中入学者選抜では 229 名の受検があった。また、２月には理数科の前期選抜も行われ、理数科で学びたいというはっきりした意思が見られる受検生が多かった。これから後期選抜を行い次年度の入学生が決まってくるが、新入生の期待に沿えるよう入念な準備を進めていきたい。
・ＳＳＨでは先導的改革型Ⅱ期の１年目。今年度は統計グラフコンクールを高校１年生の全員で行った。県知事賞をはじめ優秀な作品が多く、全国コンクールでも高い評価を受けたものもあった。また、課題研究研修会を信州大学工学部の協力のもと行い、生徒のみならず教員に向けた研修の機会として高い評価を受けた。次年度は２学年で新たな科目設置を行っていく。課題はＳＳＨの指定が令和８年度で終了するので、その後の事業展開をどう進めるか検討していく必要がある。
・地域の期待に応える高校として学校の魅力化をどのように進め、また本校の魅力をアピールしていくのかも次年度に向けての大きな課題である。

３．学校からの説明
（１）附属中学校の取り組み
・生徒は毎日切磋琢磨しながら学習に励んでいる。また自ら進んで探究的な学習をしている生徒も多くみられる。引き続き、全職員で生徒一人ひとりを大切にしていきたい。
・ＳＳＨの関連学習（講演会等）については中学生も年間４講座を受講した。積極的に大学教授に質問に行く姿もあり、生徒たちの学問への興味関心が高まった様子がうかがえた。
・県内外からの視察等を今年度も多数受け入れた。また、指導主事を招聘し全職員で研修を行うなど、引き続き日々の授業改善に努めている。
・２月 21 日（金）に実施した総合文化発表会では、一年間の学習成果を保護者や地域の方に伝えることができた。
・今年度も地域の皆様にお力添えをいただきながら総合的な学習を行うことができた。また、駅前の美化活動、棚田の田植え、科学班による子ども科学教室やものづくりフェアへの協力など、地域と結びついた学びを行うことができた。
・オンライン授業・探究学習日は職員が校外からの配信を行うなど、オンラインでしかできない授業を工夫してきた。午後は探究の時間で生徒が各自で自分の学びを深めている。
・生徒の活動では、千曲市の観光地を缶バッジにしてカプセルトイ作成し駅などに設置したり、しなの鉄道のホーム発車音を作曲し市役所にプレゼンに行ったりなど、考えたことを形にしている姿も見られた。

（２）キャリア教育
・ほぼすべての３年生が無事共通テストを受験した。また、生徒の９割以上が６教科型での受験。科目を絞らず総合力で勝負している。
・共通テストに「情報」科目が入り実施初年度のため、手探りで準備を進めたが結果を残せた。

・２月に校内の進路研修会を行った。３年生の共通テストデータを共有し現状確認を行った。理系の平均点の伸び悩みがあった。課題についてはしっかり原因の分析を行い次年度につなげていきたい。
・国公立や私大入試に向けて自習室で学習する姿が多く見られている。
・今年度は難関大への出願が増加傾向である。
・理数科、普通科選抜生、一貫生それぞれが、自分の目指す進路に向けて頑張る姿が見られた。
・学校推薦型、総合選抜型受験の受験者が増加している。

（３）生徒指導
・校内での指導事案はなく、生徒は落ち着いた学校生活が送れている。
・毎年、自転車の事故が一定数ある。ヘルメットの着用の義務なども含め、引き続き注意喚起を行っていく。地域から要望（横断歩道の渡り方、自転車通行について）については都度対応をしている。
・交通安全に関する講演会、ＳＮＳトラブル防止の講演会、職員による街頭指導４回を実施した。
・ＳＮＳトラブルは大きな事案はなかったが、引き続き注意を継続していきたい。
・生徒指導事案は減っているが、引き換えに生徒支援を必要とするケースが増えている。

（４）生徒相談
・生徒相談、生徒支援を必要とする事案が年々増加傾向にある。
・医療機関とつながりを持つ生徒も多い。（学習や自分自身の悩みが多い）
・今年度からオンライン授業の実施をした。学校に行けずに困っている生徒や家庭に対してどのような支援が可能か、引き続き検討をしたい。
・毎週、係で会議をもち、生徒の情報共有・支援にあたってきた。
・卒業する生徒が自信をもって社会に出て行けるように、職員で協力して生徒支援を行っていく。

（５）生徒会
・１・２年生中心の新執行部が始まった。
・稲荷山養護学校との交流会は感染症流行により残念ながら中止になった。
・班活動の再編について、限られた施設や職員の中で、生徒のニーズに幅広く応えられるように、生徒会本部とともに考えていきたい。

（６）ＳＳＨ
・オンラインや対面で海外交流の機会を多く持ち、英語スキルや国際性の向上への取組みができた。
・課題研究研修会を信州大学工学部の協力のもと行い、高い評価を受けた。来年度はこの研修会をどう発展させていくか、考えていく必要がある。
・統計グラフコンクールでの県知事賞、サイエンステクノロジーコンテストでの数学筆記分野で県１位、日本数学コンクールでの優秀賞など、今年度も校外での発表やコンテスト等に生徒が多数参加して実績を残した。
・探究学習については授業や班活動とのバランスをとりながら進めた。高いレベルの探究を実践できている生徒には、積極的に校外での発表やコンテストへの参加を勧めてきた。
・オーストラリア研修を１２月に実施。コロナ禍よりオンラインで交流し、準備を進めてきた。
・３月のＳＳＨフォーラムにて研修報告。来年度以降も希望者が増加することを期待。

（７）学校評価について
・すべての生徒の進路実現に向けての取組み強化、校内美化への取組みの強化が来年度への課題として挙がっている。
・外部への情報発信について多くの意見をもらっている。外部発信の仕方について検討していく。
・職員評価は中間評価より上昇したが、低い評価をつけた職員から意見を集めて、本校の取組みについてより良い方向性を模索していきたい。
・また、評議員の皆様からのアンケート結果を踏まえ、今後の学校づくりをしていきたい。
・職員アンケートでは、「学校づくり」で信州大学との提携もあって高い評価となった。

・コロナ禍から通常に戻していく過渡期の中で、行事の精選を行ってきた。

４．学校評議員からの質疑及び意見

【質疑】

・学校に来られない生徒について来られない理由はどのようなものが多いか。
　→集団になじめない生徒、体調面で生活のリズムが整わない生徒が多い。
・ヤングケアラーに対してどのような支援が考えられるのか。
　→保護者・生徒のカウンセリングや、ＳＳＷに入ってもらい行政のサポートをうけるなど、多くの人が支える体制づくりを心掛けている。
・個別の支援が必要な生徒は入学前から個別支援を受けてきたか、在籍時に新たに支援が必要になったのか。どういうケースが多いか。
　→小中学校で支援を受けてきた生徒が多い。状況はまちまちである。高校に入り、環境が変わり、改善傾向の生徒もいる。

【意見】

・生徒が多様化してきているが、どの生徒にとって貴重な学習の機会、それが担保されるとよい。
・学力の２極化や発達障害を持つ生徒の増加など、集団での指導が難しくなってきていると思う。生徒が持ついいところを伸ばしていくような指導を行ってほしい。
・学力の２極化については、中間層のレベルアップに繋がる取組みを積極的に行ってほしい。
・中学校では学びのパターンが広がっている。不登校生徒は増加傾向にある。オンラインでの授業参加生徒について、出席や評価について検討しながら進めている。このような生徒が高校を受検していく。中学卒業時から進路の多様化が見られる。
　→どのタイミングで２極化が始まっているのか、２極化の原因がどこにあるのかを分析し、高１・高２の早い段階から質の高い学習集団を形成していく。
・部活動の再編の話題が出たが、部活動で得られる教育効果は高い。職員の負担になっていかないよう外部人材や施設の利用も考えながら、継続してほしい。
・情報発信について、屋代高校はいろいろな活動をしているので、外向けに発信を強化したい。ターゲットをどこに向けるのが大切ではないか。
・ＳＮＳの活用やＨＰの効果が馬鹿にできない。最近は発信した人が評価される時代。プラスの効果を生む外部発信をしたい。
・ＨＰで生徒の活動を見て学校の様子を知ることが保護者の安心につながる。生徒からの発信ということもおもしろい。中学生の興味をひく。
・私立高校への進学者が増加している。国の施策により次年度はさらに増えることも考えられる。
・しなの鉄道を利用して、更埴地域から上田地域や長野地域の高校を選択する生徒は多い。
　→県の施策でＨＰのリニューアルに取り組む予定である。学校の様子が分かる情報を増やし、生徒が自ら発信していくような方法も検討していきたい。
・生徒が自分の興味関心に基づいて探究し、学習している。自ら学ぶエネルギーをもっていることは望ましい。
・普段の授業から探究的な学びをしていることを強く感じた。
・高校２年生の授業を見て、３年生が卒業した中で責任感や希望を持って一生懸命授業を受けている印象をもった。中学の数学では、自分たちで問題を作る、自分たちで考えて協議していく授業をしていた。このようなスキルは将来の仕事にもつながっていく。
・自分の子どもが大学受験をしたときには、中期・後期の入試までしっかりサポートしてもらった。引き続き受験をする３年生のサポートをお願いしたい。
・中学校のオンライン授業いろいろな取組がおもしろい。地域との連携や行事への参加など、こういう取組みも志願数の増加につながるのでは。いろいろな工夫をしていると感心した。
・ＳＳＨもたくさんの事業をやっていて魅力的である。課題研究もわくわくするテーマが並んでいる。
・学校を扱ったテレビドラマが変化してきた。金八先生のような昭和な教師は「正解」を求めがち。教師が答えを教えない現代の教師ドラマ。大学入試の問題を見ても、受験生に考えさせる問題が増えている。附属中の授業はクラスメイトと関わりながら学習している。そのような授業をそれぞれの市町村の学校に戻ったときに広めてほしい。

・地域の中に学校があることはありがたい。学生が活発に活動して元気がある様子が伝わってくると頼もしい。引き続き様々な活動を頑張ってほしい。
・職員評価は肯定的な評価が多くてよい。職員の意識の高さが現れていると感じる。

５．諸連絡

６．閉会